

SJクイズ ?

[問題編]

Q₁

2020年の交通死亡事故件数を車道幅員別にみると、幅員5.5m以上の道路の発生件数はゾーン30※の推進が始まった2011年と比べ40.0%減少しました。では、幅員5.5m未満の道路（生活道路）では何%減少しているでしょう？

- ①約33%減少 ②約43%減少 ③約53%減少

Q₂

2021年の交通事故死傷者数を車道幅員別・状態別にみると、幅員5.5m未満の道路において歩行中・自転車乗用の死傷者が占める割合は、幅員5.5m以上の道路の何倍でしょう？

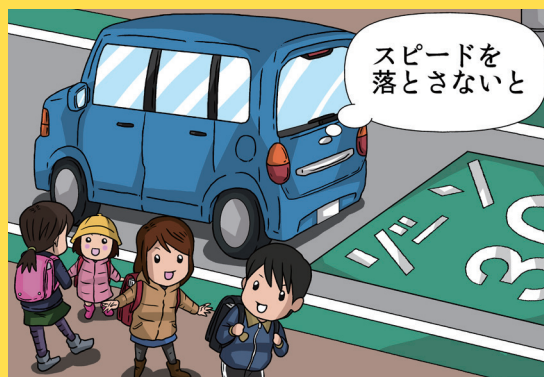
- ①約1.2倍 ②約1.5倍 ③約1.8倍

Q₃

2020年度までに整備されたゾーン30において、整備前年度の1年間と整備翌年度の1年間の交通事故を比較すると、何%減少しているでしょう？

- ①約20% ②約30% ③約40%

※生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策。区域（ゾーン）を定めて30km/hの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度の抑制を図る。



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

SJ クイズ ?

[解答・解説編]

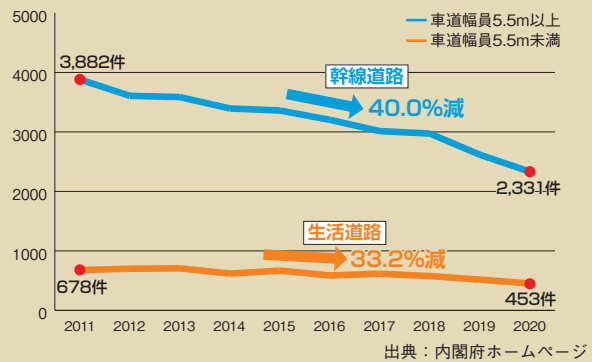
Q1 解答 ①約33%減少

<解説>

2020年の幅員5.5m未満の道路（生活道路）での交通死亡事故件数は、ゾーン30の推進が始まった2011年と比べ33.2%減少した。減少割合は幅員5.5m以上の道路（幹線道路）に比べ小さくなっている。

生活道路は、その地域の住民が日常的に利用する道路のため、急な飛び出しなども起きやすく死亡事故にもつながりやすい。クルマの速度が30km/h以下の場合、死亡事故確率は大幅に減少することから、生活道路では、安全確認はもちろん、30km/h以下で走行することが死亡事故防止につながるといえる。今後さらに交通事故件数を低減させるためには、ゾーン30やゾーン30プラスの拡大など生活道路における安全対策だけでなく、ドライバー・ライダーの安全運転意識の向上につながる啓発が重要といえる。

●車道幅員別・交通死亡事故件数の推移(2011年～2020年)



Q2 解答 ③約1.8倍

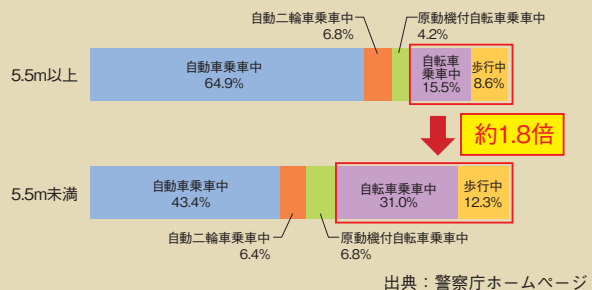
<解説>

2021年の交通事故死傷者数を車道幅員別・状態別にみると、幅員5.5m未満の道路（生活道路）において歩行中・自転車乗用中の死傷者が占める割合は41.4%と、幅員5.5m以上の道路（幹線道路）の約1.8倍となっている。

生活道路では自転車利用者や歩行者が被害に遭いやすいため、ドライバー・ライダーは万が一に備え、制限速度を守って走行することはもちろん、道路を急に横断する自転車や歩行者などを予測し、安全運転に努めてほしい。

一方、自転車利用者や歩行者は、通行するクルマやバイクにより一層注意する必要がある。「よく通る道だから大丈夫」と安全確認を怠るのは危険である。特に自転車利用者は、見通しの悪い交差点では必ず一時停止して左右を確認してほしい。

●車道幅員別・状態別・交通事故死傷者数(2021年・構成率)



Q3 解答 ②約30%

<解説>

2020年度末までに全国に整備されたゾーン30は4,031ヵ所。整備前年度の1年間と整備翌年度の1年間の交通事故発生件数を比較すると、整備後は29.5%（歩行者・自転車事故は27.8%）減少している。ゾーン30によって交通事故抑止の効果があるといえるだろう。

子どもや高齢者が利用する施設等を含む区域、観光施設等多数の歩行者等の通行が想定される区域などにおいてゾーン30の整備が進んでいる。ドライバー・ライダーは、ゾーン30に指定される区域を抜け道として利用することは控えてほしい。やむを得ず利用する際は、30km/h以下という制限速度を遵守しなければならない。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736